

平成 28 年 9 月 28 日
練馬区地域医療課

平成 28 年度事例検討会の結果報告

1 第 1 回（練馬地区）実施結果

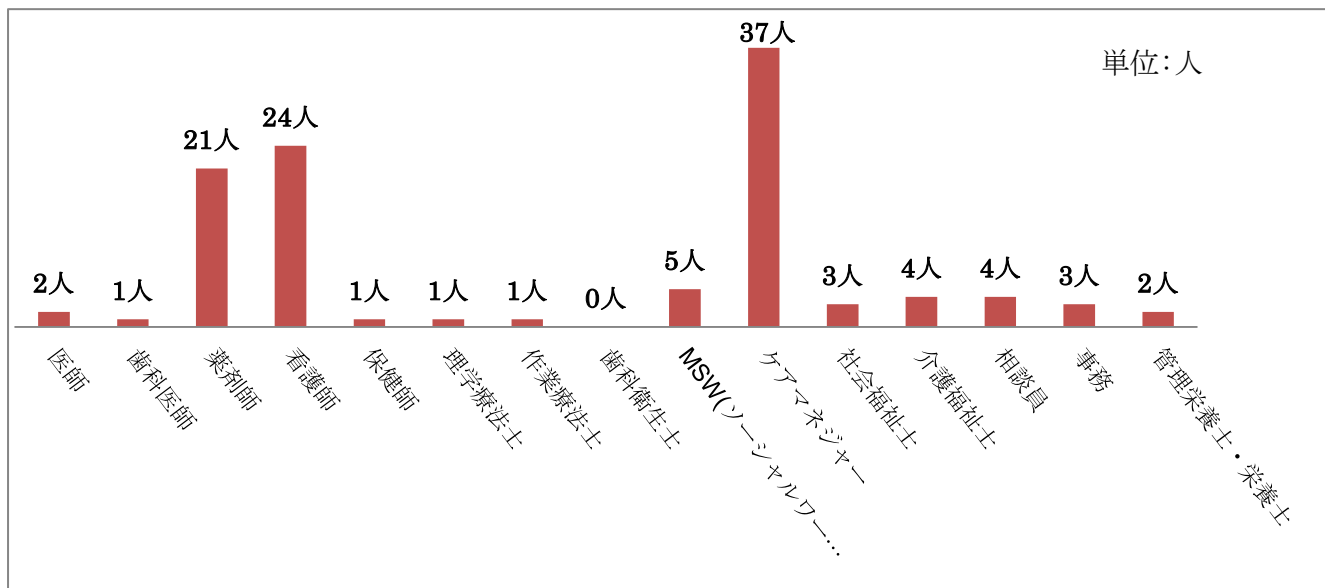
（1）開催概要

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深める。 ・練馬地区において事業所間、専門職間で顔が見える関係性を構築する。
実施日	平成28年 7 月 15 日（金） 19：00～21：30
テーマ ねらい	<p>テーマ「胃ろうは幸せにつながるの？ーコミュニケーションが取りにくいパーキンソン病の症例ー」</p> <p>コーディネーター：ホームクリニックのどか 豊島 究（医師）</p> <p><概要></p> <p>パーキンソン病でコミュニケーションが取りにくい症例を通じて、胃ろう造設が本人と家族の幸せにつながるのかどうかについて、多職種の視点から検討します。</p>
プログラム	<p>第 1 部 事例検討会</p> <p>事例検討「胃ろうは幸せにつながるの？ーコミュニケーションが取りにくいパーキンソン病の症例ー」</p> <p>【発表者】</p> <p>コーディネーター：ホームクリニックのどか 豊島 究（医師）</p> <p>パネリスト：ライフサポートさくら 菅野 治代（ケアマネジャー）</p> <p>ライフサポートさくら 國貞 雅子（ヘルパー）</p> <p>アール訪問看護ステーションねりま 黒田 陽子（看護師）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で意見交換 <p>テーマ：本症例において、「医療・介護・幸せかどうか」それぞれの観点で検討した結果、胃ろうを造った方が良いか、造らない方が良いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班から発表 ・事例の経過報告（胃ろうの造設有無およびその後） ・発表者からの胃ろうについての意見 ・まとめ ・アンケート記入 <p>第 2 部 多職種交流会</p>
参加者	<p>事前申込者数 163 人、参加決定者数 104 人、傍聴 59 人</p> <p>参加者数 93 人、欠席者数 11 人、参加率 89.4%</p> <p>傍聴 41 人（当日参加 9 人を含む）</p>

(2) アンケート結果抜粋 (アンケート回答者数 110 人・回答率 82.1%)

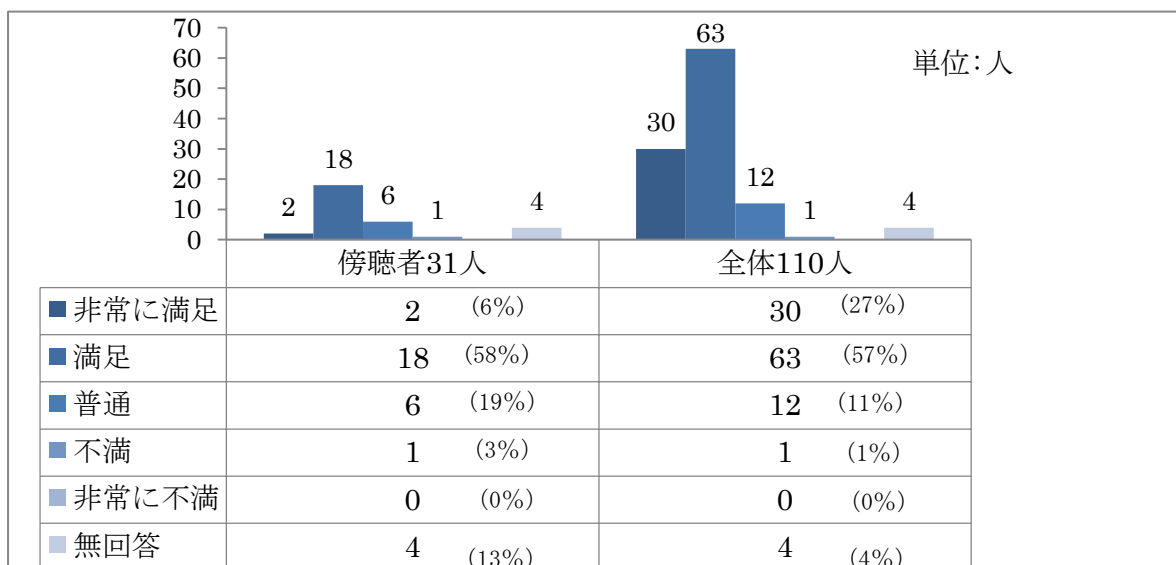
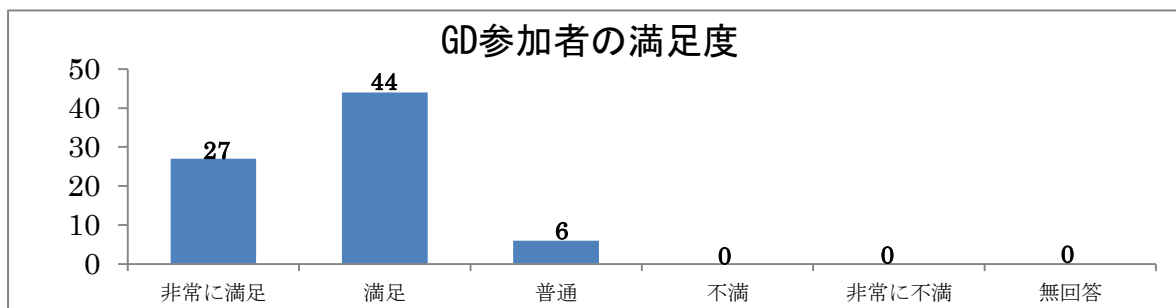
①回答者職種

参加者数が多かった職種は順に、ケアマネジャー (37 人/34%)、看護師 (24 人/22%)、薬剤師 (21 人/19%) だった。



②事例検討会の満足度

「非常に満足」、「満足」と回答した方が合わせて 90% (93 人) だった。



③満足度の自由意見（抜粋）

「非常に満足」

- ・胃ろうに対する考え方を色々知ることができた。
- ・医療職視点でものを考えると生命維持に視点を置いてしまうため、多職種の人意見を聞き本人・家族の幸せを考えるとという視点を再確認し初心に戻れた。
- ・多職種の人と意見を交わせる機会はあまりないので、いい機会になる。
- ・様々な職種の方の意見を聞くことができ、学ぶものがあった。

「満足」

- ・職種によっても意見や物のとらえ方、感じ方が異なるのだということがわかり良かった。医療ということに意識をとられすぎるのではなくQOLの観点から患者・家族の幸せが何なのかを考えないといけないと改めて感じた。
- ・臨床の場に居て何がベストか客観的に考えなくてはと反省した。
- ・今後の胃ろうの方の支援のヒントになった。医療の視点を知ることができた。

「普通」

- ・検討時間がもっとあればよかった。

④多職種に対する理解が深まったと実感した点（抜粋）

- ・医療的リスクを考え造設という頭だったが金銭的負担・介護負担に気づけなかった。違う価値観や思いが聞けて、一人一人がどんな思いで患者さんと関わっているかを学んだ。
- ・他職種の方の経験や意見が聞けた点。
- ・今日、薬剤師・栄養士からの専門的意見が聞けたので良かった。
- ・生命維持という立場、生活を重視する立場、という職種の違いがよく分かった。
- ・職種によって優先、尊重する視点の違いを知る機会になった。
- ・他職種の視点・見解を知ることによって今まで曖昧だった点が少しくリアになってきた。
- ・医療モデルでは、生命維持・生活の基盤を作ることが視点であり、重要ポイント。生活モデルでは、本人の意思決定、どんな生活を送りたいかが視点であり、重要ポイントとしているなど、主眼の差異を知ったように思う。